



平成26年1月

<第10号>

柏市立柏病院

【住所】 柏市布施1-3

【電話】 04-7134-2000

新年おめでとうございます

本年が良い年になりますようお祈り申し上げます。

年末にご迷惑をおかけした放射線科MRI装置の工事は、お陰様でほぼ終了いたしました。MRI装置は都合2台になり、今年は検査待ち期間の短縮が期待されます。病院の建て替え方針が昨年柏市で決定しましたが、機器の更新や環境整備はそれを待たず計画的に行う予定です。昨年、満足度調査で皆様から頂きましたご意見やご要望はすべて、担当者全員で拝読いたしました。皆様のご期待に添うべくより良い病院をめざして今年も尽力してまいりますので、引き続きご支援のほどお願い申し上げます。



病院長 野坂 俊壽

顔

連載インタビュー 第6回

今回は、循環器内科科長 **小林 和郎** 医師です。

Q. 先生のご出身は？／台東区です。浅草の近くで生まれ、チャキチャキの下町っ子です。

Q. 子供の頃なりたかった職業は？／乗り物が好きで、高校では本気でエアラインパイロットになりたいと思い、理系を選択しました。しかし近視のため、航空大学受験を残念ながら断念しました。



Q. その後どうしましたか？／電気通信大学を卒業して、トヨタ自動車に入社し、クルマのシャシーを設計しました。

Q. 学生時代に熱中したものは？／パイロットのあきらめがつかず、自家用操縦士なら裸眼で0.1あれば良いので、3年間ひたすらバイトして、アメリカで免許を取得しました。



その後、日本の免許も取得し、最近までセスナでフライトを楽しみました。大島空港に着陸し、三原山に登ったり、温泉に入ったりするのが好きでしたね。

Q. その他の趣味は？／旅行が好きですね。今まで50以上の国や地域を旅行しました。アフリカ最高峰5895mのキリマンジャロに登ったり、シベリア鉄道経由でヨーロッパに行ったり、グリーンランドで冰山を見たりしました。昨年は西アフリカのガーナに行ってきました。

Q. 医師になろうと思ったのは？／たまたま高校時代の友人がほとんど医学部・歯学部に進学しました。友人の話聞いてると、医師のやりがいなどが伝わってきました。就職後も、友人たちが医学部ならまだ再受験できる年齢だということで、会社から帰ってきた後に勉強しました。



Q. 医師になって苦しかったことは？／研修医なりたての3ヶ月間は、重症の患者さんの治療で、極度の睡眠不足でした。土日も含め、平均の睡眠時間が3時間で、ナポレオンやピンクレディーになれると思いました。居眠りの時間すらありませんでした。5泊6日の睡眠が合計8時間ということもありました。

Q. 循環器内科のやりがいは？／循環器内科は急性期の診療が重要となること多い診療科目です。生命が危険な患者さんが急性期を乗り越え、外来で元気な姿を見せてくれることに、やりがいを感じます。

Q. 患者さんへ一言お願いします。／胸痛、動悸、息切れなどの症状があれば、お気軽にご相談ください。しっかりと診療させていただきます。

小林 和郎 (こばやし かずお)

循環器内科科長

プロフィール

富山医科薬科大学(現: 富山大学)医学部卒業後、東京医科歯科大学第二内科に入局。平成22年当院に循環器内科科長として着任。忙しい業務をこなしながらも趣味が多彩で、休憩中にはスタッフを楽しい話で和ませてくれる。診察日は火・水・第2土曜(予約のみ)。



病気のお話シリーズ ⑥

『肺炎球菌ワクチン』

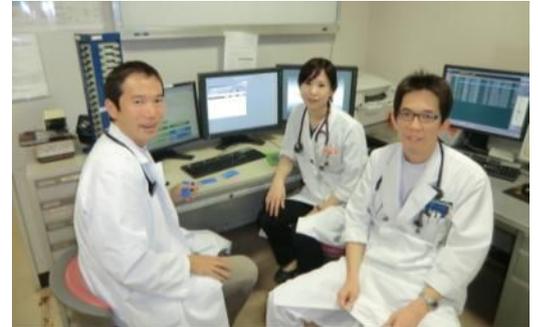
<呼吸器内科>



今回は、『肺炎球菌ワクチン』のお話です。肺炎は身近な病気であり、このワクチンは話題となっているワクチンの1つです。このことについて、呼吸器内科の医師にお話を聞きました。



今回ご協力いただいた
呼吸器内科の医師を
御紹介します！



冬になり風邪をひきやすくなるこの季節、インフルエンザの予防注射は多くの方がご存知で、すでに接種済みの方も多いと思います。インフルエンザワクチン以外にも様々な予防接種がありますが、肺炎球菌ワクチンという予防注射があるのはご存知でしょうか。テレビのCMで聞いたこともあるかもしれませんが、簡単にお話ししましょう。



Q. 肺炎球菌ワクチンとはどんなワクチンですか？

A. 「肺炎」は多くの方が良く知っている病名と思いますが、日本人の死因第3位と言われていて、亡くなる方の95%以上は65歳以上です。肺炎の原因菌の約30%くらいが肺炎球菌によるものと言われて、一番多い原因菌です。これらを予防するのが肺炎球菌ワクチンです。

Q. どんな方が対象ですか？

A. どんな方にお勧めかという点、65歳以上の方、2～64歳でも慢性的に心臓、肺、肝臓に病気を持っている方、糖尿病の方は受けた方が良いと言われています。肺炎になる確率、肺炎での入院率、肺炎になってかかる医療費などを減らすというデータがあります。予防注射をして自分が肺炎にならないことはもちろん大切ですが、それだけではなく自分が肺炎にならないことによって、例えば大切な家族を感染から守ることもつながります。特別な人が行うワクチンではなく、いろいろな人に受けて頂きたいワクチンなのです。

Q. 抗生物質の治療だけではダメですか？

A. 肺炎になっても抗生物質で治療すればいいのではないかと感じてしまうかもしれませんが、現在、抗生物質が効かない肺炎球菌が非常に増えていて、分離される菌の約半分が抗生物質の効きにくい菌と言われています。つまり抗生物質でも肺炎が治らない危険性が高いのです。ところが肺炎球菌ワクチンはこのような薬の効きにくい菌にも有効です。



肺炎球菌ワクチン

Q. ワクチンの副作用はありますか？

A. 注射に伴う副反応としてはインフルエンザワクチンと同様、注射局所の痛み、腫れなどで、重大な副反応の確率は高いものではありません。ワクチンの成分が原因で、肺炎球菌による肺炎になってしまうことはありません。日本で高齢者の接種率は20%程度ですが、米国では70%程度と言われていて常識になりつつあります。日本でも接種している人が増えてきています。

Q. 効果はどれくらい続きますか？

A. インフルエンザとは違って、一度注射すると5年間有効です。以前は5年経った後の再接種が認められていませんでしたが、2009年から再接種が可能となっています。接種から5年以上経過している方は再接種をお勧めします。

呼吸器内科から患者さんへ



これからは病気になってから治すのではなく、病気にならないようにすることが主流になっていく時代です。規則正しい食生活、運動などで普段から身体の抵抗力をつけることはもちろんですが、もう一つ肺炎球菌ワクチンでより細菌に負けない身体を作りましょう。

なお、当院の肺炎球菌ワクチンの接種は**予約制**となっております。ご希望の方は呼吸器内科医または主治医にご相談ください。

世界糖尿病デー院内イベント を開催しました！

世界糖尿病デー院内イベントは当院の毎年恒例の行事になっています。今号では行われたイベントのもようをご報告します。



講演会 2013年11月13日 講師 稲澤 健志 医師



スライドで分かりやすく講演



質問に耳を傾ける稲澤医師

ポスター展示 2013年10月11日
～11月15日



糖尿病サポートチームによる
手作りのポスター

講演会参加者の声



Aさん

参加できてよかったです。血糖コントロールが出来ている人と出来ていない人では、その後の経過が全然違うというグラフが印象に残っています。なかなか目標値以下にならないため悩んでいますが、定期的に先生のお話を聴くことで日々の血糖コントロールが大切だということが再認識できます。(HbA1cが)7.0%未満を目指していきたいと思います。

Bさん

毎年参加しています。先生が言っていることは解っているけれど実行できないところが悩みです。先生のお話の中で、「入院したら治して帰りたい」という人がいると聞いて、私もそのように思いました。糖尿病は表に症状が現れない病気です。定期的に病院に通うことで、自分の状態を理解して上手に付き合っていくしかないと思います。

Cさん

稲澤医師の糖尿病教室の講演会で、少しずつ糖尿病のことが分かってきました。糖尿病は身近な病気だということ、HbA1cや血糖値が大事だということが分かりました。

参加職員①

くまモンとふなっしーの登場は患者さんの気持ちを“ほっと”させてくれて良かったと思います。

糖質を制限する事はバランスをまず考えてから行う事が大切という事を先生が言って下さって助かりました。(栄養相談の時によく質問される事なので)

参加職員②

今年は『HbA1cは 7.0%未満だモン』というテーマですが、HbA1cの質というところまでCGM(24時間持続血糖測定)事例をあげていただいたことで患者さんにも印象に残ったのではないかと思います。質の良い血糖コントロールを支援できるよう、外来での支援や療養教室で頑張りたいと思います。

講演会で稲澤医師がお話しした内容は、当ホームページの**メディカルトピックス**(平成25年12月号)に掲載しています。そちらもご覧ください。

ボランティア活動日誌

患者を支える会

2013年12月19日

クリスマス会2013。3曲目「きよしこの夜」の合唱の後、サンタさんがベッドサイドに届けたのは香りのプレゼントです。素敵なポスターを見て、楽しみに待ってくださったというライアー(竖琴)コンサートには患者さん、ご家族、ご近所の方が詰めかけました。ライアーの調べは人々の緊張した気持ちを解きほぐし、内なる自分に触れる力があるようです。患者さんの目には涙が光っておりました。



報告

防災訓練

共催 柏市医師会



治療エリア（赤エリア）

平成25年10月13日、当院において柏市医師会、柏市消防局、柏市の連携による大規模防災訓練が行われました。

この訓練は、「柏市医師会マニュアル」に基づいて行われた初めての訓練で、防災対策本部を設置し、その指揮・命令系統、本部員の役割等を確認すると共に、診療エリアではトリアージ（傷病者の治療優先順位を決定すること）を実施し、迅速な本部対応と被災者の受け入れを行うものでした。

第1部 開会式～防災対策本部・トリアージセンター設置

開会式では野坂院長及び柏市医師会を代表して松倉聡理事からの挨拶があり、その後、当院の森永防災対策委員長の訓練開始宣言によって訓練が始まりました。

訓練は秋の平日13時頃にマグニチュード7.3の東京湾北部地震が発生、柏市の震度は6を記録。病院建物への被害は小さかったが、院内は停電し、ガス供給も停止状態となり、周辺地域の家屋倒壊、家具の転倒等により多数の負傷者が発生したと想定。

まず災害の発生をうけ、防災対策本部を設置し、初期消火活動や外来患者の誘導、その他トリアージセンター及び重症患者、中等症患者、軽傷患者の3つの治療エリアの設置を行いました。

トリアージとは・・・

対応人員や物資などの資源が通常時の規模では対応しきれないような非常事態に陥った場合において、最善の結果を得るために、対象者の優先度を決定して選別を行うこと。



挨拶をする野坂院長



柏市医師会・柏市・柏市消防局の来賓の方々



防災対策本部に所属長が集まり、状況を報告



集まった情報を分析し、対応を指示

第2・3部 トリアージ訓練～治療エリアへ搬送

その後、トリアージセンターと治療エリアにて、当院と柏市医師会、柏市消防局の協働によるトリアージ訓練を実施しました。

はじめにデモンストレーションを行ったあと、実際の現場を想定して模擬患者30例を用いて訓練が行われました。

トリアージセンターに次々と搬送された患者を、当院の医師と柏市医師会の応援医師が協力し、症状ごとに傷病者の治療優先順位を選別。重症患者は赤色、中等症患者は黄色、軽傷患者は緑色の3種類のタグを患者に付け、それぞれの治療エリアに迅速に搬送していきました。



訓練前にデモンストレーション



トリアージ訓練



治療エリア（緑エリア）



当院での治療が困難な場合、他院へ救急搬送



河野 友亮医師<泌尿器科>が着任しました。

昨年10月より河野 友亮医師が着任しました。遅くなりましたが、河野医師の紹介をさせていただきます。

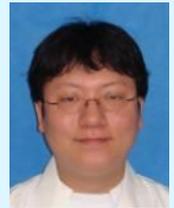
河野 友亮 (こうの ゆうすけ) <泌尿器科>

出身地/福岡県 出身大学/東京医科歯科大学

趣味・特技/映画鑑賞 子供のころの夢/宇宙飛行士

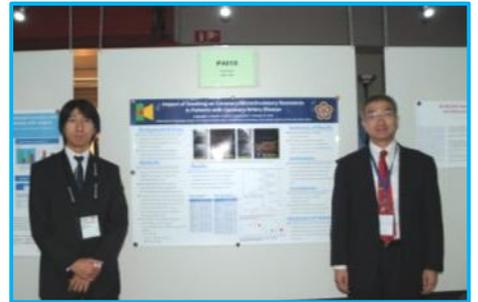
当院へ初めて来たときの印象/「木の多い病院」だなと感じました。

診療に心がけていること/かゆいところに手の届く診療を目指しています。



ヨーロッパ心臓病学会 2013 にて、循環器内科医師 2 名が発表しました。

2013年8月31日から9月4日までオランダのアムステルダムで行われた学会に参加しました。心臓病学会のオリンピック(4年に1度ではありません!)という現地報道の表現はあながち大げさではなく、全世界から循環器系の医師が学会に参加します。毎年同時期にヨーロッパ各地で行われており、去年はドイツのミュンヘン、来年はスペインのバルセロナが開催都市の予定となっております。今回当院で心臓カテーテル検査を行った患者さんの予後追跡および喫煙の影響について、2題の演題をポスター発表させていただきました。<報告・宮崎 徹 医師>



学会に参加した宮崎医師⑤と小林医師⑥

MR I 装置 (3 テスラ) が新しく増設されました。

昨年11月よりMRI装置の増設工事を行ってまいりました。工事期間中は大変ご迷惑をお掛けいたしました。工事が完了しましたので、ご報告と装置のご紹介をさせていただきます。装置名はシーメンス社製 MAGNETOM Skyra<マグネトム スカイラ>(3 テスラ)です。今までの装置に比べ、より高画質な画像が得られ、診断能の向上が期待されます。また室内空間が少し広くなり、圧迫感の軽減がなされています。現在本格稼働に向け、準備をしておりますので、もう少々お待ちください。



新しく増設される3テスラMRI

当院の取り組み



輸血療法勉強会の開催

輸血療法委員会は輸血療法が安全・円滑に行えるよう、輸血療法に関連する諸問題の改善や輸血業務に携わる職員の教育、さらに先進医療に関係する新しい輸血療法実施の審議を目的に活動を行っています。11月15日には輸血療法委員会主催の勉強会が開催され、検査科からは当院における輸血製剤の使用状況と輸血実施時に起きた問題と解決策の報告がされました。

また、東京医科歯科大学医学部附属病院輸血部部長の梶原 道子先生をお招きし、輸血副作用の対応と注意点についてご講演いただきました。



講演をいただいた
梶原 道子先生

来院された方へ



インフルエンザ感染対策のため、来院された方にはマスクの着用をお願いしております。ご自身の予防、また感染の拡大を防ぐためにご協力をお願いいたします。なお、定時に院内放送をかけさせていただきます。あらかじめご了承ください。



編集後記

いろいろな方に協力をしていただき、今号で第10号を迎えることができました。私自身、編集をしながら、「へえ～、そうだったんだあ。」と感じたことが多くありました。読者のみなさんはどうでしたでしょうか?少しでも多くの方に、当院の取り組みや病気のことを知っていただこうと頑張っていますので、今後ともよろしく願いいたします。

広報委員 鶴飼 史隆(画像診断科)